

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



第8回島田虎之助顕彰少年剣道形演武大会 (平成26年9月)



現在の山国川
(虎之助が修行した当時は橋は無かった。)



剣心一致の碑(天仲寺公園)

第5回

天仲寺山は幕末の剣聖「島田虎之助」 修練の地

剣術の腕を磨いた天仲寺山

中津藩の下級藩士の4男として中津に生まれた島田虎之助(1814年~1852年)は、少年時代から剣の道に生きる決意が固く、昼は中津の道場で、夜は一人山国川を渡って天仲寺山に登り、剣術の修練に精進しました。十八歳のとき、九州各地に武者修行に出て、各地にその名をとどろかす一方で自分の未熟さを悟り、心の修養と剣の修行に励みました。その後も天仲寺山で修練を積んだといわれています。天保十八年(1837年)には、江戸浅草の新堀に直新影流の道場を開き、門下生の勝海舟にも大きな影響を与えたと伝えられています。

剣心一致の教え

剣は心なり 心正しからざれば 剣また正しからず
剣を学ばんと欲すれば まず心より学ばべし

虎之助は、剣術の目標を「剣心一致」とし、精神の統一を強調しました。また、剣の才能は素晴らしく、「幕末の剣聖」と呼ばれました。この教えを刻んだ石碑が、修練の地である天仲寺公園に建てられています。

また、歌手の水川きよしさんの「一剣」という歌は、虎之助をモチーフとしていることから、曲が発売された当時の平成18年、水川さんご本人が虎之助修練の地である天仲寺公園を訪れています。

今月開催「島田虎之助顕彰少年剣道形演武大会」

現在、虎之助の功績をたたえ後世に伝えるため、吉富歴史文化の会や吉富町武道館少年剣道教室を中心とした島田虎之助顕彰武道演武大会実行委員会が開催しています。今年が隔年で「島田虎之助顕彰少年剣道形演武大会」を開催しています。今年が大会の開催年で、今年4月(日)に第9回大会が吉富町体育館において開催されます。この大会は、全日本剣道連盟が定める日本剣道形を、「剣心一致」の精神で演武するもので、小学生から高校生の剣士たちが、日頃の成果を精一杯披露します。